

CELLISSIMO

http://kobe-cello.com



見事なアンサンブルを披露したイクシオントリオ in 東京 (左から、アイーダ・ビーラ、ニーナ・ティッチマン、マリア・クリーゲル)

イクシオントリオの日本ツアーに 数多くの賞賛の聲が届きました。

イクシオントリオ日本ツアーコンサートを終えて
チェロのマリア・クリーゲル、ヴァイオリンのアイーダ・ビーラーはドイツから9月15日の朝に、ピアノのニーナ・ティッチマンはアメリカから同日の午後に着てきました。三人が揃ったのは9月15日の夕刻。今回アテナ1として大活躍の芦屋にお住まいの山本理事お薦めの神戸肉のしゃぶしゃぶ店で初めての夕食を楽しみました。その席には翌日16日の練習会場を提供くださった上野克二様も一緒くださいました。

上野様宅は過去にローラ・ポベスコ(也)や藤原真理、デュオ・ハヤシらが同じように練習場所としてお世話になっていたところでした。イクシオンの練習振りにかの上野様ご夫妻は舌を巻きながら「こんなに素晴らしい本物の迫力あるトリオは今までの想像を超えるものです」と言われるのでした。



上野様宅で来日後、初練習



下呂温泉小川館でつづく浴衣姿の三人。よく見ると帯が...

私は10日間近く二人と行動をともにしました。車、新幹線、飛行機と移動にかなりの時間を費やしましたが、彼らがそれらの移動中に居眠りなどまったくしませんでした。どこからこの元気が出てくるのだろうか、と私が思うほど彼らはタフなものでした。そして、感心するくらい彼らは仲良しなのです。

余談ですが、18日には飯田市への途上到下呂温泉で一泊しました。アルカリ温泉で肌がすべすべになることに大いに喜んだ彼らは夕方だけにとどまらず翌朝にも湯につかった次第でした。

さて、女三人寄れば「かしまし」と言いますが、まさにドイツ・アメリカ人の彼らも多分に漏れずにそうでした。「もう話するネタがないのでは?」と私が心配することなどご吹く風、三人は起きている間は、しゃべっているか、食べているか、弾いているかという有様でした。そして、彼らの尊敬すべき点はアカなことです。特にマ

リアとアイーダの二人の性格の明るさは感心すると同時に、なんか彼らが見習いたいと思っただけです。

そんな彼らが楽器を手に舞台上に上がると俄然大きく見えるのでした。アイーダもマリアもそしてニーナもみんなそれぞれ欧米ではソリストとして活躍している演奏家なのです。芸術家として世界レベルの評価をそれぞれに受け、卓越した技術と音楽性を持っておられるのです。過去七年間に渡って何十回となく本番を経験してきた曲であっても練習のたびに注意し合う所が出てくるものなのです。彼らはそれらの自分たちの疑問には常に真摯に何度も討議し、弾き直しを繰り返すのでした。

トリオコンサートを日本の音楽事務所はほとんど招聘しません。ほとんどの場合、経済的に合わないからです。ですから今まで良質のピアノトリオコンサートに接する機会がほとんどなかった中で今回のイクシオントリオが各地で多くの音楽ファンにその音楽性と楽しさを教えてくださったことはとても意義のあることだと思えます。トリオファンが全国で多少なりとも増えたことは私たちの最も喜びとするところです。

今一度、マリア、アイーダ、そしてニーナの二人に御礼を申し上げたいと思います。そして、なによりもその実現に向けてお力添えくださった全国の協力者の皆様の存在があります。

最初に買い取り公演を決定いただきました兵庫県立芸



Vol. 10

大変な話題となったアンコール曲「赤とんぼ」を演奏する三人
本人たちにとっても、素晴らしいピースとなったようです(東京)



術文化センターのゼネラルマネージャーの林様はじめ運営スタッフの皆様(9月17日公演)、公演わずか一カ月前にご自身の後援団体での買い取り公演を決断してくださいました長野県飯田市の牧野市長様(9月19日公演)、名古屋公演の集客に地区理事として渾身の協力をくださいました岩城さん、ICES会員でないのに名古屋市内の大勢のクラシックファンを労苦を惜しまずその紹介に東西走してくださいました久田様ご夫妻(9月20日公演)、カザルスホールを満席にしよると石川様の迫力に東京地区理事の田原さん、副理事長の寺田先生は元理事の藤井さん、会員の森さんとともに観客動員と当日運営に多大のご協力をくださいました(9月21日公演)。大分では市の助成金の獲得をはじめ、チケット販売・動員にそして当日の運営に尽くしてくださいました副理事長の白沢さんと軍団の皆様。夫にこれだけ多くの地域の皆様のお力添えでイクシオントリオの初日本ツアーは成功裏に終えることができました。

NPO
国際チェロ
アンサンブル
協会
事務局長
松本巧

誌面をお借りしまして衷心からの御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。2007年10月吉日

参加メンバーの 思い、感想

お出迎えと、旅のアテンド、お見送り

このたびの来日で、ニーナを関西空港までお迎えに行き、また、空港に見送りをさせていただきました。というのは、マリア、アイダはドイツから、ニーナは米国から来日するからです。ニーナとは、前回の来日時に会っています。空港のゲートから出てきたとき、ちよつと見違えるようなほどふつくらしてしまいました。

15日は華僑大会の影響でポートピアホテルが使用できず、若屋市にある竹園ホテル(巨入軍の定宿です)に1泊、16日はホテル近くの上野氏宅で練習、17日、西宮市のホテルでのコンサートを迎えました。

松本氏のアテンドでトリオは、18日から、飯田、名古屋、東京と巡り、22日の大分を迎えました。私は大分で再会、23日の大分から神戸までの移動を手伝わせていただきました。

大分の白川姉をはじめメンバーの見送りを受け、特急ソニック、新幹線を乗り継ぎ新神戸駅で改札を出ようとするとき、ニーナが「切符がない」と大騒ぎ。結局、あったのですが、アイダいわく「いつものことよ」：そうなんです。レストランでネックレス、自分のちゃんこ屋さんと眼鏡、大分駅でバッグを掛け荷物の確認、彼女の別の姿に接した感じでした。

24日、早朝に松本氏は、マリア、アイダを空港に送り、私はニーナを12時にホテルから空港に送りました。空港のチェックゲート前でお別れをして、エスカレーターで出国ゲートに降りる姿を確認し、緊張したが楽しかった彼女たちとの10日間を終了しました。

山本康雄

マリアさんの演奏は、2005年に開催された「1000人のチェロコンサート」に先立ってのプログラム以来。確か水曜日だったように記憶しています。そして、「1000人のチェロコンサート」の後のパーティで写真を撮っていたから、演奏もさることながら、その包み込むようなやさしさのファンになりました。

会報でイクシオントリオのコンサートを知らながら、日々、ついついチケットを申し込みをひいていたのですが、ホール中央の後ろに設置された補助椅子の席をなんとか手に入れることができました。

兵庫県芸術文化センターのホールはまだ新しく、木の温かみのある素晴らしいホールで、息びつたりの3人が奏でるハーモニーがやわらかく、そして力強く響き渡り、至極の幸せでした。演目も、作曲家自身が気に入ってよく演奏したなど、それぞれの作曲家のピアノ三重奏を演奏することができました。多くの方々がオペラグラスで、食い入るように(おそらく)マリアさんの指を見つめていらつしやいました。

特にあらためてチェロの醍醐味を再認識したのは、アンコールのアンコールのそのまたアンコールで、「アカトシボ」と曲名をおっしゃり、演奏が始まったときです。赤とんぼのメロディを予感させるフレーズが、巧みな編曲で珠玉のクラシックの旋律となつて、数分間続きました。3匹のトンボが風に吹かれて上になつたり下になつたりするような印象を受けながら聴き入っていました。そしてたつぷりとそのメロディを堪能した頃、そのメロディがやってきました。マリアさんのチェロが奏でる「赤とんぼ」です。チェロって本当に人の声だ、と実感。マリアさんの赤とんぼを聴き、みなさん、それぞれ自身がおわけて「背中伝いに胸に響いた歌声を思い出されたのではないだろうか。

会場でCDを購入したのですが、購入者全員にサインをしてくださり、この日の記念になりました。最高に贅沢な初秋の午後は、チェロに惚れ直した午後でした。

高木佐智子

アンサンブルの原点を知りました

マリア・クリーゲルさんは、「1000人のチェロコンサート」での私のパートのトップ

Il Violino Magico Co.,Ltd.

弦楽器輸入・修理・修復・調整・鑑定・毛替・買取・販売

風土に愛され、長い年月をかけ、ひとつの木が育ちます。製作家に見いだされたその木は、熟練された最高の技術とあふれる愛情を受け芸術品へとかたちをかえます。

そして今落ち着いた店内に、その作品は並べられました。Magico ここが演奏家との出会いのはじまり。

演奏家に弾き込まれ、職人に手入れされながらようやく、作品は、総務としてこの世にふたつとない至高の音色を響かせます

長い長い道のりだからこそ得られる至上の喜び。その音のために Magico は今日もここにいます

www.magico.co.jp

イル ヴィオリノ マジコ
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-3-16-1F
Tel 03-5368-1250 Fax 03-5368-1251

Magico Call コーポレート マジコへ
0120-878797
mail : info@magico.co.jp



マリアの右手、左手の動きはとも参考になります

テレビカメラが回る中、最後の打ち合わせ

「ノットゥル」の弦楽アンサンブルについてアドバイスするニーナ

プをされておき、同じく若い年齢(勝手な想像ですが)で、とても親近感を持っておりました。今回のトリオも、熟年女性3人という、珍しいグループで、そういう意味でも楽しみなコンサートでした。そして感想は「素晴らしい！」のひとことでした。

3人のこれまで生きてこられた人生がそのまま音楽になったような、味わい深く、何よりも演奏者たちがアンサンブルをすげえ楽しんでおられるのが良くわかる演奏でした。アンサンブルの原点を知ったような気がします。私もチェロを楽しんで弾こう!と思つたことでした。

武田 紀久子

秋の夜、名古屋を魅了した三人のミュージズ

現在、最も元氣のある都市として名古屋は全国的に注目されていますが、国際都市を目指す割には芸術文化面では未開拓の余地が多く、上質な音楽会を気軽に楽しむという環境は未整備といえます。ただ近年は、名古屋駅前から東へ発展する栄界隈を中心にコンサートホールも充実してきており、東京から関西へと名古屋飛ばしが頻繁だった頃比べると、クラシックコンサートの開催数も増え、充実したプログラムに出会う機会が豊富になってきました。この秋、情感を扶るような忘れがたいコンサートとの出会いがあり、それを紹介します。

今夏、名古屋は残暑が厳しく九月に入っても汗ばむ日が続いていました。気分的にも街に「芸術の秋」の様相は乏しく、文化的な香りは程遠いように思われました。そんな折、9月20日に名古屋電気文化会館ザ・コンサートホールで待望の演奏会が開催されました。ピアノ、ヴァイオリン、チェロのトリオ・コンサートで、奏者は全員がドイツ・国立ケルン音楽院の教授、芸術的円熟期にある女性三人です。もちろんこの会報誌をお読みの皆さんはプログラム内容も演奏者も十分に承知の、NPO国際チェロアンサンブル協会主催「イクシオン・トリオ」のコンサートです。この夜、初めて名古屋の街にも本格的な芸術の秋が訪れたことを実感しました。息を呑むような繊細で美しい音色が会場内を満ちたのです。

実は、このときごくコンサートを名古屋で開催するに当たって少しだけお手伝いをさせて

せていただきました。協会理事長の松本巧さんからご連絡があり、会場探しから始めて、告知やチケット販売など、友人・知人に呼びかけて協力いただき、無事に開催日を迎えることができたのです。

もともとは、主人の大学の同窓でケルン放送交響楽団首席コントラバス奏者の河原泰則さんの名古屋初のコンサートの折に河原さんからご紹介いただいたのが松本巧さんでした。河原さんを支援する一橋大学同窓有志が協力して名古屋でのコンサートを成功させ、一番の功労者が松本さんだったのです。今回は河原さんのコンサートではなく、大学の同窓会(如水会)が中心になることはできませんでしたが、前回と同じように皆さんで応援しようという機運が高まり、前如水会名古屋支部長の佐伯進さんと夫妻と幹事の深田正雄さんのご支援のもと、河原さんがドイツから推薦文を送ってくださり、大学オケ仲間でご認会計士の丸山弘昭さんと大学オケ後輩の名港海運の高橋広さんも推薦文を書いて、広く皆さんに呼びかけてくださいました。

芸術文化関係者として愛知芸術文化協会理事長の藤井知昭さん、愛知芸術文化センター管理部長の木村博和さん、名古屋モーター協会の吉川昌夫さん、牛毛神社の久米生光さん、中部楽器技術専門学校理事の岩田光義さんご夫妻、金城学院大学の高橋隆二さんご夫妻が、友人に呼びかけ誘い合せてホールに駆けつけてくださいました。また、受付など裏方を家族で担当された豊田市の岩城雅邦さんのご尽力も見事で印象的でした。ホール会場の電気文化会館企画担当の味岡幹夫さんご厚情は、特筆に値するほど懇切丁寧なフォローをいただきました。

他にも多くの方にご支援をいただき、正に手づくりの温かいコンサートの開催となったのです。会場のあちこちで会釈を交わす親しげな光景が見られ、シンプルな舞台での高度に上質な演奏と音楽愛好家が占める融和的な客席との関係が心地良く、気品あふれる優雅な雰囲気包まれた、最高のホールとなりました。アンコール曲の「赤とんぼ」では、ハンカチで目頭を押さえる人も見受けられ、静かな余韻の残る秋の一夜となりました。誌面を借りて御礼申し上げます。

最後に、酷暑の中を何度も名古屋を訪問され、初対面の方にも一人ずつに頭を下げて熱心にチケット販売をされた松本さんに心からの敬意を表し、そのご努力の甲斐あつてすばらしい音楽を私たち名古屋人が共有でき、マリア・クリーゲルさん、ニーナ・ティッチマンさん、アイダ・ビラーさんら演奏者の方々とともに感動を分かち合えましたこと、心から感謝申し上げます。音楽(ミュージック)の語源は「ミューズ(女神)」とのこと、名古屋での三人のミュージズの再演を心待ちにしております。

久田 治子

「心に触れたノットゥル」

まず3人のメンバーが、心からアンサンブルを楽しんでいることが痛いほど伝わってきて、聴いている小生の心がこんなに動かされたことは、初めての体験でした。

特にシューベルトのピアノ三重奏「ノットゥル」は、シューベルトの作曲年代からいつて弦楽五重奏ハ長調と同じで、ノットゥルのヴァイオリン・チェロ、五重奏アダージョ楽章のヴァイオリン・ヴィオラ・第一チェロの、それぞれのアンサンブルの共通点は、シューベルトの叙情性が最もよく現れているところでしょう。

室内楽曲の大半が音楽愛好家のために作曲されたものであるだけに、演奏して初めてシューベルトの楽しさが味わえるというもの。何度か五重奏を弾きましたが、そのつど、弦の密集したアダージョの変わり行く音形を心から堪能し感動したものでした。

改めてシューベルトをはじめベートーヴェン、ドヴォルザークの室内楽の楽しさを再確認するとともに、ストラダのチェロの音色を堪能した一晚でした。

薄井 秀夫

民俗の多様な文化を深く把握する芸術家たちに触れた幸いです。まだ暑さが残る9月21日午後東京駅にて、イクシオン・トリオの皆様と全行程に随行させていただきました。名古屋公演を終えた翌朝の移動でしたが、皆様は明るい笑顔で東京駅の新幹線プラットフォームに降りられました。

そして一行を東京公演の会場、カザルスホール近隣の山の上ホテルにお連れして、チェックインの手続きと昼食を「一緒しました。ニーナとマリアは握り鮎セツトを注文、手づかみを勧めましたが、果敢にも箸で挑戦。しかし鮎セツトと飯が分かれたり、醤油皿にダイブしたり、口に入れるまで苦労されていました。

アイダは私の本業がスズキ・メソッドのチェロインストラクターであることわかってご自身の子どもも生徒たちにスズキ教材を使用していることを話してくださいました。その教育的な価値を「音楽を聴くこと」で覚えるから楽譜を読むことについては別だけれど、初歩にとつても良い教本だ」と評価されていました。

マリアよりスズキ・チェロの初歩生徒指導について質問を受けたので、弓を「椰子の木」右手を「猿」に喩えて何回も登り降りさせるゲームを披露したところ、ご自分たちもこれから「箸の訓練」に取り入れると笑っていらつしました。

話は前後しますが、10日前の同じ場所で開催準備会にて、公演事前チケット販売約150枚と知らされ、愕然としました。私の担当席数目標200席はほど遠く、力不足を感じました。しかし諦めず、残る日々を集客に力を注ぐことになりました。松本理事長、田原理事にはかなりご心配かけました。私も公演開始まで心中穏やかではありませんでした。

祈る気持ちで迎えた公演当日は、カザルスホール全511席中、300席以上の観客を迎えました。前日に本国から日本に戻られた駐日ドイツ大使も駆けつけ、楽しませていました。偶然にもNHK教育テレビのドイツ語講座が松本理事長を取材、舞台裏まで追いかけていました。

公演演目の「大公」は個人的に練習に励んだ曲であり、かつてスークトリオのピアノリストによる公開レッスンを受けた経験の「ドムキー」はさらに強い思いを持って聴きました。イクシオン・トリオの柔らかな音色と呼吸を合わせた音楽作り、かつ演奏を楽しんでいらつしやる様子がカザルスホールの規模で間近に感じられ、多くの方々より嬉しい感想をいただきました。演奏会翌日の朝8時前、大分公演へ移動



カザルスホールで準備に余念のないスタッフの皆さん



空岡の中村さんは元にも昇る気持ち

するメンバーを羽田空港に届けるため山の上ホテルロビーに迎えに上がりました。

出発準備も整ったところでメンバーより「昨日車を運転してくれた貴方の息子は？大分で行ったのか」と聞かれ、今日は家で休んでいること「本日はお彼岸の中日であり、仏教徒の多くはお墓に行き先祖の霊に祈りを捧げる」と話しました。するとアイダが「Levanzoをうた。仏教徒もthe land 実際はmoonを言いました。calendarを使うのか？」と尋ねられ、彼女のルーツがわかりました。

それから空港に向かう車中で民族文化の多様性と共通性の話題となり、弾みました。彼女の主人がハンガリアンと紹介され、マジヤールと日本と同じ慣習「姓名表記(順番)」をこちらの乏しい知識で披露しても、そこからまた話が進み、面白かったです。

その後ふと「ドムキ」で特にVnが生きてきたように思えたのは、彼女のルーツからかと思えました。東欧のユダヤ音楽とスラブ音楽、またロマの音楽はどこか共通性があるように思えます。かつてチェコ出身の自分のチェコ恩師に「ドムカ」について質問したところ、「ごく普通の楽曲であること」を説明するの苦労されていました。

ところが彼女たちのアンコール曲「赤とんぼ」の見事な演奏は、日本人に違和感なく受け入れられます。感動的でした。かつてマエストロがレコードに日本の曲をまつたく別なりズム感で吹き込んでいた頃は天違いです。カザルスホールご来場の皆様から、目頭が熱くなったとの感想を伺いました。

長い鍛錬といういろいろな場所での演奏経験からはもちろんですが、各文化の良い部分を深く把握して楽しむことができる芸術家は、美しい表現方法を幾通りも持っているの勝手に理解しました。

最後にお世話になりました皆様に感謝を込めて、東京公演打ち上げの画像を披露させていただきます。当日のメインスタッフとして働いてくださった森様、藤井様、石川様、新様、ありがとうございます。

担当理事 寺田義彦

ボランティアの力が結集しました

チェロを持つての仕事は何度もやりましたが、スタッフとして働くのはこれが初めてでした。最初故のときどきもありましたが、何

とか切り抜けることができたと思つています。スタッフといつても皆ボランティア。お金をもらえないわけではありません。それでも、怠ける人なんていませんし、むしろ、自分で仕事を引つけて進んで手伝っていました。大学のオーケストラで進行・雑務を担当していた自分としては、それはすごくらやましいことでした。大学オーケストラでは確かに手伝つてくれる人はいても、進んで仕事を引き受けてくれる人や、指示を仰がなくても動ける人はごく限られた人たちだけだからです。

おかげで、コンサートを教習も楽しむことができた。いくつか反省点もありますが、それをフォローしていただいた各関係者の方々と素敵な演奏をしていただいたイクシオントリオの3人に感謝しています。どうもありがとうございます。

寺田悠介

Die Zugabe vom Xylin Trio Konzert Thema die "Aka Tombo"

私たち「1000人のチェロ」の仲間と馴染みの深いドイツのチェロ奏者マリア・クリゲルさんのピアノトリオ「イクシオン」が9月に来日され、神戸・飯田・名古屋・東京・大分の5都市でコンサートを開きました。プログラムも魅力的でシュートベルト・ペーターウエン・ドヴォルザークの名曲でした。

しかしアンコールに込めるのは何か？ ちょうど気になり、日本に来たからには、やはり日本の曲ができれば、印象深い、素晴らしいコンサートになるのではないのでしょうか。

世話役の松本巧さんなどと相談し、まず第一に「赤とんぼ」を薦めました。私自身もこの曲が好きで、かつてドイツ大使公邸やアメリカン・クラブで演奏し、外国人に喜ばれた経験の持ち主でもあります。

3曲の日本の秋の歌から、イクシオントリオは「赤とんぼ」が気に入って本番アンコールで演奏されました。私たちは題名のみ説明をし、演奏内容には口出しをしませんでした。ところが驚くほどの曲の理解で赤とんぼが紅葉の美しい小川の上を何匹かが飛んでいるような表現。夢のような音色の歌と手慣れたアンサンブル。感激して涙を流して聴いている方もいたほどです。この「赤とんぼ」の楽譜はこんなに立派な演奏をしてもらったことが今までになかったでしょう。

楽譜も幸福の一時でした。私が言いたいことは「ローレライ」や「木」などのドイツ民謡は古くから日本でも受け入れ、子どもたちも歌っています。これからは「浜辺の歌」や「荒城の月」が外国でも歌われるようになるのを願っています。

今までの音楽文化は一方通行の状況を変えてこそ今日の日本人の心が外国で理解されるのではないのでしょうか。ヨーロッパとの文化交流が往復できることはお互いに大変に嬉しいことです。

私は日本の音楽作品を外国に発信することを強く望んでいます。そして「1000人のチェロ」の会は民間外交としてチェロを通じて世界の平和のために貢献できること。そして、「音楽の力」はあらゆる芸術の中で一番強いと信じています。

石川嘉一

カザルスホールの集客を担当しました

今回委員の皆さまには本当にお世話になりました。どうもありがとうございます。週れば6月に松本さんと寺田先生と3人で打合せをしたのですが、その時に、カザルスホールは500席あるのでそれぞれ200名目標にがんばりましょうといわれました。私は友人をかき集めても10名くらいですと申し上げたのですが、首都圏の会員をタハラの担当にすから大丈夫というお話になりました。確かに首都圏の会員は60名、一人が2人連れてきてくれたら180名?! それで安易にお引き受けしたのです。ですが、7月末に会員の方を含めて「第3回1000人チェロ」にご参加くださった300人に案内を発送させていただいたのに、ほとんど何の連絡もなく何日も過ぎていきました。

諦めかけていた頃に、石川嘉一さんから「いつも1000人チェロでお世話になつていいるから、何か手伝いましょう」という心強いご連絡をいただきました。そして藤井直さんにもご協力いただき、3人でドイツ文化センターや日独協会などにパンフレットを持ち込んだり、さらにメールや手紙でアナウンスもしてくださいました。またその後、他の会員の皆様からの「協力もあり、何とか約300名の集客で終えることができました」

「おかげで鼻が3mmほど高くなりました」それから私事ですが、あまりにも幸せだったお話を…。実はこのコンサートの6日前は、私の〇歳のバースデーでした。打ち上げパーティーの時に、マリアさんのストラディヴァリウスを弾かせていただいたうえに、マリアさんが私のために「ハッピーバースデー」を演奏してくれたんです！ もう、嬉しいなんてもんじゃありませんよ。「天にも昇るとは」のこと。『なんて私は果報者』イクシ

今回、国際チェロアンサンブル協会で、会員が一致団結して何かするのは難しいことだと良くわかりました。でも素晴らしいチェロ仲間がいることも再確認できました。また、会場では何人も懐かしい方々とお目にかかれましたし、懇親会では、予定どおり松本さんのご配慮により、ストラディヴァリも弾かせていただき、楽しい時間を過ごすことができました。ですので、また何かありましたら、これに懲りず、しつこく首都圏の皆様にご連絡させていただき、微力ながら力を尽くしてまいりますと思っております。今後とも一層のご協力のほど、よろしくお祈りいたします。本当にありがとうございます。

感動・感激・感謝
9月22日 大分空港にイクシオントリオのお三方が満面の笑みで到着(感激!)
大分では
◎14:45~15:30
大分軍団チェロとICESのメンバーによるチェロアンサンブル
◎16:00~17:00
イクシオントリオの公開リハーサル
これには大分市民大喜びでした。そして、
◎18:00~ 本プログラム
マリアさん、ニーナさん、アイダさんは本当に温かいハートで大分市民、大分チェロ軍団に接してくださいました。

担当理事 田原光子

「この田舎に…この大分に超一流の演奏家の生演奏」。ホールに入つたとたん涙があふれてしまいました。3人の存在感というか、オーラというか…。もう言葉ではいえない感謝、感激…。それは大分市民も同じ思いだったと感じています。帰る時に「ありがとうございます」と何人も聴衆の方から声をかけられました。



本編直前まで、本当に打ち合わせをしていました(東京)

大分でのリハーサルも、エネルギーに満ちて素敵でした

各地でマリアのストラドが体験できました

オーソンの皆様、ありがとうございました。そして、このコンサートにむけて本当に良かったです。お疲れ様！それからもいつも県外から我が大分を応援してくる神戸組、笠岡組、高知組、行橋組、感謝です。ありがとうございます。

副理事長 白沢史子

岡山から大分まで珍道中の成果ありでした

イクシオン・トリオの演奏会は、大分公演を聴かせていただきました。

笠岡から、チェロアンサンブル「兩人会」の宴会部長を先頭に、その他の音楽仲間と一緒に4名が車で出かけました。土曜日の朝出発して、当然のようにあちこち寄り道しながらの珍道中で、トリオの公開リハーサルには間に合うように大分に到着しました。

リハーサルでは、3人のプロの真剣な意見交換や打ち合わせを目の当たりにすることができ、さらに本番での息のあった素晴らしい演奏を聴くことができ、大変感動しました。

クリーゲルが初来日の時に最初に演奏したのが笠岡であり、その時のことを覚えていてくれて、打ち上げでは大いに盛り上がりしました。今回参加の4人のボスである宴会部長が、持ち前の明るさと厚かましさとトリオのみなさん全員のサインを4人分ゲットしてくれて、参加者一同、これまた大喜びでした。

まだまだ、お楽しみは続きます。何とトリオのみなさんは二次会まで一緒にしてください、さらに楽器(ヴァイオリンとチェロ)を弾かせてくださいました。大分の白沢さんが最初にクリーゲルのチェロ(あのストラディヴァリウス)を弾かせてもらい、私にも光栄なことに声がかかり、さすがにみなさんの前で弾くことは「遠慮申し上げました」が、折角の機会なので触るだけは、と思い、クリーゲルと一緒に記念写真を撮ってもらいました。松本さんは、ピローのヴァイオリンをチェロのように立てて演奏したり、と、夢のような時間を過ごさせていただきました。

このような素晴らしい時を過ごせたのも、松本さんほもとより白沢さんをはじめ、地元スタッフの方々のお陰だと参加者一同大変感謝しています。

4人の珍道中には、当然オマケがあり、翌日は湯布院の日帰り入浴で温泉気分も満喫して帰りました。今度は、どこかで楽しい企画

をしてくれるんでしょうか。

担当理事 中村幸太郎

一粒ずつの音を大切になさるのですね

先日は、大分軍団の皆さま、大変お世話になりました。私、岡山県人なのですが、近くの神戸ではなく大分へ行つてまいりました。遠足気分と、最終演奏地での打ち上げに潜入するために。!!!

お三方のリハーサルやステージでの、ダイナミクス、和音の音質、一粒ずつの音を大切に大切に、演奏中のお互いの駆け引き、観客へのアピールなど、音楽に対する前向きで真摯でそれでいて心から楽しんでいらつしやる姿を目の当たりにし、お人柄がそのまま演奏に現れているようで、とても豊かな気分にならせていただきました。

そして、楽しみにしておりました打ち上げ!!! お疲れにも関わらず、気さくに二次会へも、おまけに、楽器を惜し気なく、皆様に触れさせてくださるなどの大サービスに、まるで別世界にいるような感覚を覚えました。クリーゲル、ティッチマンは初来日の時以来、少し関わらせていただき、覚えていてくださっていたことも、とても感激しました。

スタッフの方々のおかげで、素敵な時を過ごすことができ、ありがとうございます。また、イクシオン・トリオの方をはじめ、皆様にお会いできる日を楽しみに、チェロの練習に励むことを、心新たにいたしました。

湯浅順子

おそれ多くも前座を務めさせていただきました

イクシオン・トリオ、最高でした！こんな地方で、素晴らしい演奏を聴くことができるとなると、会場がイクシオンの世界に引き込まれ、夢のようなひと時が流れていました。

また、演奏会前の私たち大分チェロ軍団と地元のアマチュアチェリストによるチェロアンサンブルでは、各地からたくさんの方々が参加してくださり、アンサンブルを楽しむことができました(これってイクシオン・トリオの前座になるの？)。貴重な体験が盛りだくさんの素敵な一日をありがとうございました。

イクシオン・トリオ 丸山真由美

今回、イクシオン・トリオコンサートで地元大分で聴くことができ、本当に幸運でした。遠く、海外から最高の方々が、最高の楽器で演奏をしてくださるとのこと、とても楽しみにしておりました。当日、幸せにも公開リハーサルを見せていただきました。3人の、とても真剣に一言一音吟味しながらの曲づくりに、これからの演奏会への期待が高まってきました。

コンサートが始まり、3人の演奏が私の胸をふるわせ、身体全体を走り、何とも表現できない感動一杯になりました。特に「ドゥムキ」は、マリア・クリーゲルさんの奏でるチェロの音色が私の全身を包み込んで、夢の中にいるようでした。知人も「あのようになれる感動的な音色を聴いたことがない」と話し、友人も3人の演奏なのに、まるでオーケストラのように濃厚とても感動したと何度も話してくれました。本当にこのような機会をいただき、ありがとうございます。

牧英子

マリアに車中インタビュー(一部抜粋)

東京公演の翌日、車中でマリアにインタビューしました。ドイツ語、時に英語の通訳はもちろん松本巧さんです。「ストラディヴァリウスを皆さんに弾いていただくことには、全然心配していません。取扱いは注意しています。皆さんが素敵なチェリストであることも、とても信頼しているからです。むしろ自分の楽器を貸さない人のことを私は理解できません。確かに高額な楽器ですが、私はごく普通の人とおつき合いくらいで自然と、ストラドを持つているからといってナールパスになる必要はないからです。音楽に対しても自然であることが大切です。作曲家も楽器製作者もそれぞれお客様にも私は敬意を持っておつき合いをしているのと同じで、いつも自然体であることをスタイルにしています。この楽器はジャンドロンと奥様から彼の死後2年して、ある楽器製作者から紹介されたのです。というのも、奥様がその楽器製作者に相談したそうです。「この楽器は誰に弾いてもらいたらいのかしら」と。それならマリア・クリーゲルですよ、と彼は私の名前を出したのです。8年のことでした。シューマンの協奏曲をきつそく録音しました」

会報誌編集部

串乃家の串揚げはサクッと美味しく、低カロリーでヘルシーです。

揚げ(みぞれ)にまろ(串)を伸ばして、パン粉の膜の命を注ぎ油を熱めています。高温で短時間で揚げ、素材の旨味をしっかりと閉じ込め、串乃家独自の串揚げをどうぞご堪能ください。

串乃家

本林一工場	神戸一工場	京都一工場	大阪一工場	福岡一工場
〒650-0001 兵庫県神戸市東灘区本林一丁目1番1号 TEL:078-521-1111	〒650-0001 兵庫県神戸市東灘区本林一丁目1番1号 TEL:078-521-1111	〒600-0001 京都市東山区南禅寺一丁目1番1号 TEL:075-521-1111	〒540-0001 大阪市東淀川区西中島一丁目1番1号 TEL:06-6611-1111	〒810-0001 福岡県福岡市東区西馬場一丁目1番1号 TEL:092-221-1111

自然環境との融和と創造
人と環境に優しいコンクリートづくりを目指す

株式会社 柏木興産

代表取締役 柏木武春

本社 福岡県行橋市中央2丁目11番5号 Tel(0930)23-1472

営業部	本工工場	二次製品工場
本社営業部 Tel(0930)23-1000	行橋工場 Tel(0930)23-6025	田中工場 Tel(0930)23-4050
北九州 Tel(093)932-7277	高田工場 Tel(093)434-0188	熊取工場 TEL(0930)33-2926
福岡 Tel(092)481-2555		
久留米 Tel(0942)33-1455		

HP address : <http://www.kashiwaiki-k.co.jp>

information board

掲 示 板

「平和 戦争 地震 音楽」 柴田 多嘉子

神戸の地震復興を機に始まった「1000人のチェロ」が昨年、中越地震復興支援として当地で演奏をさせてくださいました。その地にも、また地震が！

名前が中越中地震「沖」がついただけ。テレビの揺れている画面に…山古志、小千谷という文字が！なんとということでしょう。聴きに来てくださった方々はみなさん、ご無事だったでしょうか、楽しんでますか。

神戸の地震のあと、新聞が1枚4ページで始まりました。無駄のない活字、すみからすみまで読みました。そのころの記事で、私は20世紀に入ってからの100年の間の、日本での地震の多さを知って驚きました。人は自分の人生に、天災は必ず起こるのだ、と知っておくべきだなあ、と思いました。そして中越中地震で、神戸も、もう地震があったから、と安心してはいられないなあ、と思いました。

怖いもの、それは、地震・雷・火事・親父…と。お父さんは今はこわくありませんが、

地震より怖いもの、それは戦争です。自然の脅威に対して人間は不可抗力です。が、戦争は、人間が起す。どうして人は国同士で争うのでしょうか。今年も8月、テレビ・新聞は戦争一色でした。

…日本の武装論議・原爆について…多くの人たちの論争も聞きました。

戦争体験者の私は、見たくない、聞きたくない、と思いつつ、でも見てしまう、聞いてしまうのです。そして戦争を知らない人たちにこそ、それを見てほしい、聞いてほしいと、心より願います。そしてこのことを、どうか覚えておいてほしいです。それは、どんな悲惨な、どんな残酷な映像よりも、戦争の現実、もっともつとひどかったのだということ。

空襲で私の家は焼夷弾の直撃で焼かれました。それは神戸の3度のうちの、2度目の空襲でした。本土の空襲が始まって、軍需工場、大都市から始まり、中小都市まで、次々と…。建物も焼かれ、壊され、人々は傷つき、死んでゆきました。日本は、それでも、それでも降伏をしようとせずに、一億玉碎へ進んでいったのです。

広島に原子爆弾が落とされました。日本は、それでも戦争を続けたのです。長崎に2発目が投下されました。日本は無条件降伏をし、そこで、戦争が終わりました。

「仕方がなかった」の発言で大臣の座を降りられた件、あなたはどう思われますか。

原爆投下のとき以来、ず〜と、私は、原爆が神戸に落とされなかったこと、私が広島・長崎にそのときいなかったこと、そのために自分が生かされて在れることに、感謝を続けています。いいことが何もなくても、少々の困ったこと、悩みが、苦しみがあっても、今の平和の日本に生かされて在れることに、ただただ限りない感謝あるのみなのです。生かされた命と与えられた時間を、世のため、人のために、ささやかながら、私のできる限り、活かしたい、と思っています。

地震からは12年です。地震で私の家は壊れました。けれども、そのときの不自由さは、震災のあとの事情とは比較になりません。それを知る人が少なくなりました。

今の日本の平和の続くことを、そして世界の戦争のなくなることを、祈るばかりです。

「CELLISSIMO Vol.8」に掲載された角谷輝彦氏の提言『世界平和とチェロアンサンブル』大賛成です。広島？長崎？その実現の日を待っています。



「朝の新聞を見て」と昨年、中越地震復興を願うコンサートの3回目の公演、田麦山小学校に子ども3人とご主人の車で駆けつけました。今、新潟在住の元レスナー(わたしはピアノ教師)との偶然の出会いで、お互いびっくりしました。彼女は、松本様ともお知り合い？！でした。その方から田麦山小学校の閉校のニュースが送られてきました(新潟日報5月28日付)。

第3回「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか」を開催

チェロアンサンブル・コンテストは、2002年に笠岡チェロフェスティバルの一環として行なわれたことがきっかけとなって、2004年に1回目の「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか」が開催されました。

その第3回「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか」が、昨年に引き続き「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか実行委員会」「いかさ市民音楽協会」と「NPO国際チェロアンサンブル協会」、それに地元のCATVである「笠岡放送(株)」が主催し、笠岡市保健センター「ギャラクシーホール」で、6月17日(日)14:00から開催されました。

参加は、3回連続参加で第1回目に優勝・前回は準優勝の「チェロアンサンブル#&b」(神戸)・3回連続参加で第1回目・第2回目ともに3位の「Ensemble Celleste」(福岡)・前回から引き続き参加の「Beloste」(福岡)・3回連続参加の地元の「閑人会」(笠岡)と、今回新たに参加の「チェリーズ」(三原)の計5団体31名でした。

今回は審査委員長に松下修也先生をお迎えしての審査の結果、優勝が「チェロアンサンブル#&b」、準優勝が「チェリーズ」、第3位が初受賞の地元「閑人会」でした。

コンテスト前日は、13:00から同ホールでリハーサルを行ない、18:00から松下修也先生を囲んで、有志による懇親会を開催しました。

コンテスト終了後は、上位3団体の表彰の後、審査委員長の松下修也先生から詳しい講評をいただき、優勝団体による受賞記念演奏も行なわれました。

前回同様、打ち上げを兼ねた第2部のチェロアンサンブル・サロンも行ないましたが、今回は、コンテスト終了後表彰までの約90分間、自由参加による即興演奏である第1部のチェロアンサンブル・サロンを舞台の前で行ない、その最後、三橋成彰作曲「震災のためのレクイエム」を演奏しました。

さらにその後、松下修也先生による黛敏郎作曲「独奏チェロのための『文楽』」の特別演奏もあり、観客も参加者も大喜びでした。

また、前回から主催に功をわけていた地元のCATVである「笠岡放送」によるテレビ放映も決定しています。

今後も、「1000チェロ」のない年には毎年6月の第3日曜日に開催することを決定し、松下修也先生にも引き続き審査委員長就任のご快諾をいただき、当然来年も開催を予定しています。ふるってご参加ください。

中村幸太郎

「第3回チェロアンサンブルコンテストinかさおか」実績報告書

2007年6月17日(日)14:00開演
笠岡市保健センターギャラクシーホール
【プログラム】

1 閑人会(笠岡)



ムソルグスキー：「展覧会の絵」、ワーグ：「大きな古時計」、佐々木勉也：「夜のとりばり」、メンデルスゾーン：「結婚行進曲」

中村 康乃理、赤井 清晃、永山 恭子、安藤 満里子、中村幸太郎、柳橋 泰志、石岡 三洋、小栗 麗奈、真庭 恵子、西田 毅弘、木村 直子、湯浅 順子、中野 幸重

2 Beloste(福岡)



ヘンデル：「ユダス・マカベウス」より合唱
ウェーバー：「狩人の合唱」、ウェブスター：

「スケルツォ」

上村 恵美、中原 聡子、大垣 藍

3 チェリーズ(三原)

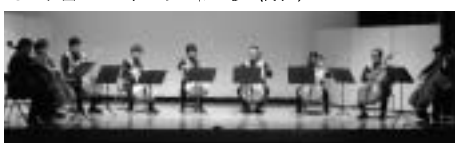
ジャン・バリエール：「ソナタ ト長調」
木村 直子、安藤 満里子

4 Ensemble Celleste(福岡)



ハッセルベルグ：「カノン」
田原 ゆかり、仲村 彩香、上妻 陽子、上田 聖子

5 チェロアンサンブル#&b(神戸)



宇宙戦艦ヤマト、ホルスト：「ジューター」
藤井 昌弘、樋口 真浩、松本 修志、井上 ほか、伊藤 裕子、岡 寛、山田 光、佐伯 浩二、高嶋 明子

6 チェロアンサンブル・サロン

自由参加による即興演奏
7 松下修也先生による特別演奏(右の写真)
黛敏郎：独奏チェロのための「文楽」



8 表彰

- ◎第1位 チェロアンサンブル#&b(神戸)
- ◎第2位 チェリーズ(三原)
- ◎第3位 閑人会(笠岡)

9 松下修也先生による講評

チェロアンサンブル#&bによる受賞記念演奏

【コンテスト審査員】

- ◎松下修也(くらしき作楽大学名誉教授)
- 馬越 裕正(笠岡市議会議員)
- 太田 茂樹(岡山交響楽団団長)

【主催】

チェロアンサンブル・コンテストinかさおか実行委員会
NPO国際チェロアンサンブル協会
いかさ市民音楽協会
笠岡放送(株)

【共催】

笠岡市



松下先生との楽しいひとときもありました



来年はもっともっと多くのご参加をお待ちしております

事務局よりお知らせ

NPO国際チェロアンサンブル協会 定時総会のお知らせ

2008年2月10日(日)13:00から大分市内にて定時総会を開催する予定です。詳しくは年か明けてからご案内させていただきますが、前もってお知らせします。

議題は今年度活動報告・決算承認、来年度活動方針・予算の討議承認です。

総会の前後にチェロアンサンブルを予定していますので、どうぞ奮ってご参加ください。よろしくお祈りします。

NPO国際チェロアンサンブル協会 ホームページの再興について

長らくデータ消失のため閉鎖されてしまったNPOのホームページを年内をめどに復活します。皆様からコンテンツへのご希望を集めています。事務局長のアドレス宛てにご意見・ご希望をお寄せください。
松本巧事務局長アドレス takumi22@skyblue.ocn.ne.jp
どうぞよろしくお祈りします。